

平成21年度 定期作況報告

(10月20日現在)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

水田・転作科(岩見沢市)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より0.5℃高く、降水量は平年の28%、日照時間は平年の114%であり、少雨、多照に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より0.7℃低く、降水量は平年の209%、日照時間は平年の85%であり、多雨、寡照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より0.9℃高く、降水量は平年の82%、日照時間は平年の82%であり少雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月の平均では平均気温は平年より0.3℃高く、降水量は平年の108%、日照

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	20.3	19.4	0.9	17.4	17.7	△ 0.3	16.3	15.4	0.9	18.0	17.5	0.5
最低気温(℃)	9.9	9.8	0.1	7.7	8.6	△ 0.9	6.9	6.1	0.8	8.2	8.2	0.0
平均気温(℃)	15.1	14.6	0.5	12.5	13.2	△ 0.7	11.6	10.7	0.9	13.1	12.8	0.3
降水量(mm)	10.5	37.5	△ 27.0	77.5	37.1	40.4	22.0	26.8	△ 4.8	110.0	101.4	8.6
日照時間(hr)	64.0	55.9	8.1	40.4	47.7	△ 7.3	42.3	51.6	△ 9.3	146.7	155.2	△ 8.5

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成11～20年の10ヶ年平均値を農試が算出し、使用。

平均気温は、各日最高・最低気温の平均値を用いた。

表中の気温は期間内の平均を示し、降水量と日照時間は期間内の積算値を示した。

II 作況

5月20日 平年並

事由:播種は平年より1日早い4月17日に行った。播種後4月下旬は低温に経過し、出芽まで7日を要し、その後の生育も遅れた。5月上旬は高温に経過し、苗の生育が進み、遅れを取り戻した。移植は平年より2日早い5月19日に行った。

移植時における苗は、茎数と主稈葉数が「きらら397」、「ほしのゆめ」ともにほぼ平年並であった。また、草丈は「きらら397」で1.5cm、「ほしのゆめ」で0.3cm平年より長く、乾物重はそれぞれ15%、10%平年を上回ったが、苗質はほぼ平年並みであった。

以上により、5月20日時点の作況は、平年並である。

6月20日 平年並

事由:活着および移植後の生育は順調であったが、6月の日照不足と6月中旬の低温により、生育は停滞した。6月20日における草丈は、「きらら397」で平年の102%、「ほしのゆめ」で平年の106%で平年並から平年をやや上回った。茎数は「きらら397」で平年の95%、「ほしのゆめ」で平年の110%と、平均ではほぼ平年並であった。また、主稈葉数も「きらら397」、「ほしのゆめ」ともにほぼ平年並であった。

以上により、6月20日時点の作況は平年並である。

7月20日作況 平年並

事由:6月下旬は平年より気温が高く、日照時間も多かったため生育は進んだ。しかし、7月上中旬の日照不足と7月中旬の低温により生育は停滞した。幼穂形成期は、「きらら397」で平年より1日遅れ、「ほしのゆめ」で平年並であった。7月20日における草丈は、「きらら397」で平年の103%、「ほしのゆめ」で平年の105%で平年並から平年をやや上回った。茎数は「きらら397」で平年の97%、「ほしのゆめ」で平年の104%とほぼ平年並であった。また、主稈葉数も「きらら397」、「ほしのゆめ」ともにほぼ平年並であった。

以上、7月20日時点の作況は、平年並である。

8月20日作況 やや不良

事由:7月下旬は平年より気温が低く日照時間も少なく、8月上旬でのみ日照時間が確保できたが、生育は停滞した。すなわち、止葉始は、「きらら397」で平年より2日遅れ、「ほしのゆめ」で1日遅れで、また出穂期は、「きらら397」で平年より4日遅れ、「ほしのゆめ」で2日遅れであった。稈長は、「きらら397」で108%、「ほしのゆめ」で106%と平年より長かった。穂長は「きらら397」で98%、「ほしのゆめ」で99%であった。また、穂数は「きらら397」で平年比101%、「ほしのゆめ」で103%でほぼ平年並であった。このように、 m^2 当たり籾数は平年並みであるが、穂ばらみ期が低温に経過したため、不稔の発生が懸念される。

以上により、8月20日時点の作況は、やや不良である。

9月20日作況 やや不良

事由:一穂籾数は「きらら397」で平年比100%、「ほしのゆめ」で96%と平年並からやや少なく、 m^2 当たりの籾数はほぼ平年並みであった。稈歩合は「きらら397」で平年より4.1ポイント、「ほしのゆめ」で2.2ポイント高かった。そのため、 m^2 当たり稈歩合は「きらら397」で平年比106%、「ほしのゆめ」で101%と平年並からやや多かった。8月下旬以降低温に推移していることから登熟は遅れており、9月20日現在いずれの品種も成熟期に達していない。今後、登熟の遅れによる登熟歩合と千粒重の低下が懸念される。

以上により、9月20日時点の作況は、やや不良である。

10月20日作況 やや不良

事由:成熟期は「きらら397」で9月30日、「ほしのゆめ」で9月26日であり、平年に比べそれぞれ10日、6日遅く、登熟日数もそれぞれ平年より6日、4日長かった。登熟歩合は「きらら397」で平年より5.2ポイント、「ほしのゆめ」で6.6ポイントそれぞれ高いが、精籾重は「きらら397」で平年比99%、「ほしのゆめ」で97%でわずかに少なかった。千粒重は「きらら397」で平年比95%、「ほしのゆめ」で平年比96%と軽かった。屑米歩合は「きらら397」で平年より3.1ポイント低かったが、「きらら397」に比べ千粒重が軽く粒厚が薄い「ほしのゆめ」では0.5ポイント高かった。精玄米重は「きらら397」が55.1kg/aで平年比100%、「ほしのゆめ」が47.3kg/aで平年比93%で、平均するとやや軽かった。

以上により、10月20日時点の作況は、やや不良である。

注1) 作況指数(収量平年比)と作柄の判定基準 (農林水産省の統計基準による)

作況指数	90～	91～94	95～98	99～101	102～105	106～
作柄	著しい不良	不良	やや不良	平年並	やや良	良

品種名 項目 \ 年次		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗(参考)		ゆめぴりか 中苗(参考)
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	(前3ヶ年)	本年
播種期	(月.日)	4.17	4.18	△ 1	4.17	4.18	△ 1	4.17	4.18	4.17
移植期	(月.日)	5.19	5.21	△ 2	5.19	5.21	△ 2	5.19	5.21	5.19
幼穂形成期	(月.日)	7.08	7.07	1	7.06	7.06	0	7.05	7.05	7.07
止葉始	(月.日)	7.25	7.23	2	7.22	7.21	1	7.21	7.19	7.23
出穂期	(月.日)	8.08	8.04	4	8.06	8.04	2	8.04	8.04	8.06
成熟期	(月.日)	9.30	9.20	10	9.26	9.20	6	9.27	9.20	9.29
穂揃日数	(日)	6.0	5.8	0.2	6.5	6.4	0.1	7.0	6.3	6.5
出穂まで日数	(日)	113	108	5	111	108	3	109	108	111
生育日数	(日)	166	155	11	162	155	7	163	155	165
移植時地上部乾物重(g/100本)		2.36	2.05	0.31	2.40	2.18	0.22	2.64	2.20	2.60
草丈 (cm)	移植時	10.9	9.4	1.5	10.4	10.1	0.3	11.6	9.7	10.9
	6月20日	24.0	23.5	0.5	26.6	25.1	1.5	25.5	25.0	26.8
	7月20日	57.4	55.6	1.8	60.8	57.8	3.0	63.3	63.3	63.6
茎数 (移植時:本/個体) (その他:本/m ²)	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.1	1.1	0.0	1.0	1.0	1.1
	6月20日	340	359	△ 19	383	349	34	315	315	378
	7月20日	878	906	△ 28	958	923	35	835	845	968
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.4	3.2	0.2	3.3	3.1	0.2	3.2	3.1	3.5
	6月20日	6.8	6.9	△ 0.1	6.4	6.5	△ 0.1	6.4	6.7	6.7
	7月20日	10.7	10.6	0.1	10.0	9.9	0.1	10.2	10.4	10.5
	止葉	11.3	11.2	0.1	10.3	10.3	0.0	10.3	10.6	10.9
稈長	(cm)	68.5	63.5	5.0	71.3	67.1	4.2	73.5	68.2	73.5
穂長	(cm)	16.0	16.4	△ 0.4	15.2	15.4	△ 0.2	16.2	16.8	17.0
穂数	(本/m ²)	750	742	8	818	798	20	723	736	765
一穂粒数	(粒)	48.2	48.1	0.1	41.8	43.4	△ 1.6	48.2	56.2	49.0
m ² 当粒数	(百粒)	362	357	5	342	346	△ 4	348	414	375
稔実歩合	(%)	87.1	83.0	4.1	88.6	86.4	2.2	84.7	82.5	86.3
登熟歩合	(%)	79.1	73.9	5.2	83.3	76.7	6.6	83.0	74.0	82.8
籾摺歩合	(%)	75.6	75.0	0.6	67.2	69.4	△ 2.2	75.6	74.4	74.3
屑米歩合	(%)	6.6	9.7	△ 3.1	17.0	16.5	0.5	7.3	11.1	8.4
千粒重	(g)	21.4	22.6	△ 1.2	20.5	21.3	△ 0.8	20.3	21.4	20.9
わら重	(kg/a)	72.9	67.4	5.5	76.8	70.2	6.6	85.8	76.6	81.0
精籾重	(kg/a)	72.9	73.5	△ 0.6	70.4	72.8	△ 2.4	70.5	75.5	74.6
精玄米重	(kg/a)	55.1	55.1	0.0	47.3	50.6	△ 3.3	53.3	56.3	55.4
収量平年対比	(%)	100	100	0	93	100	-7	(95)	(100)	-
検査等級			2上	-		1下	-		1下	

注1)「きらら397」の平年値は前7ヶ年中、平成20年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2)「ほしのゆめ」の平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注3)平成18年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注4)平成21年より「ゆめぴりか」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注5)耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1.5t/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱 栽 植 密 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え 反 復 : 2

注6)刈り取り面積は一区3.6m²、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

畑作の部

畑作科(長沼町)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より0.6℃高く、降水量は平年の27%、日照時間は平年の109%であり、少雨に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より0.8℃低く、降水量は平年の180%、日照時間は平年の87%であり、多雨・寡照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より0.4℃高く、降水量は平年の93%、日照時間は平年の71%であり、寡照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より0.1℃高く、降水量は平年の99%、日照時間は平年

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	20.4	19.8	0.6	17.5	18.1	△0.6	16.5	15.8	0.7	18.1	17.9	0.2
最低気温(℃)	8.9	8.8	0.1	6.5	7.8	△1.3	5.5	4.9	0.6	7.0	7.2	△0.2
平均気温(℃)	14.7	14.1	0.6	11.8	12.6	△0.8	10.7	10.3	0.4	12.4	12.3	0.1
降水量(mm)	9.0	32.9	△23.9	54.5	30.3	24.2	17.0	18.2	△1.2	80.5	81.4	△0.9
降水日数(日)	4.0	3.3	0.7	6.0	3.8	2.2	3.0	2.8	0.2	13.0	9.9	3.1
日照時間(hr)	59.8	54.8	5.0	41.0	46.9	△5.9	36.8	51.5	△14.7	137.6	153.2	△15.6

注1) 本年から気象データを「マメダス中央農試本場」に移行。欠測値および明らかな異常値はアメダス長沼で補正。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。ただし、平成11年と平成12年はアメダス長沼のデータを使用。中央農試で算出。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) △は減を示す。

1. 秋まき小麦(平成21年播種)

平成21年

9月20日：平年並

事由：播種期は9月16日で平年より1～3日遅いが、安定した越冬のために必要な生育の確保には問題が無い播種時期である。

以上により、現在の作況は平年並である。

10月20日：やや不良

事由：出芽期は9月22日で、播種期と同じく平年値より1～3日遅いが、順調な出芽状況であった。しかし、10月2半旬以降低温傾向となり、10月20日現在で草丈及び茎数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

品種名 項目 \ 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (H21.月.日)	9.16	9.15	1	9.16	9.13	3
出芽期 (H21.月.日)	9.22	9.21	1	9.22	9.19	3
出穂期 (H22.月.日)		6.07			6.11	
成熟期 (H22.月.日)		7.19			7.25	
冬損程度 (0:無～5:甚)		1.9			1.3	
草丈 H21.10.20	20.6	24.0	△ 3.4	20.4	26.2	△ 5.8
(cm) H22.5.20		50.5			52.0	
H22.6.20		98.8			106.2	
茎数 H21.10.20	692	987	△ 295	665	1050	△ 385
越冬前(11月)		1586			1540	
越冬後(4月)		1600			1688	
H22.5.20		1255			1359	
(本/m ²) H22.6.20		727			749	
成熟期に 稈長 (cm)		93			103	
おける 穂長 (cm)		8.9			8.7	
穂数(本/m ²)		700			664	
倒伏程度 (0:無～5:甚)		1.6			3.1	
子実重 (kg/10a)		616			593	
リットル重 (g)		804			789	
千粒重 (g)		37.6			42.6	
品質 (等級)						
子実重平年対比 (%)		100			100	

注1) 平年値は前7か年中、最凶(ホクシンH21、ホロシリH21)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH20)を除く5か年平均(収穫年度)。

注2) △は平年より早、短、少を表す。(※以降の作物においても同様)

注3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

4. 大豆

6月20日：やや不良

事由：播種期は平年より3日早い5月19日で、出芽期は平年並からやや早かった。6月中旬が低温・寡照に経過し、各品種とも主茎節数は平年より少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日：平年並

事由：6月下旬の高温により、6月中旬までの生育の遅れはやや回復傾向にあり、主茎長は平年より短い、主茎節数は平年並からやや多かった。また、分枝数は「ユウヅル」でやや少ないが「スズマル」および「ツルムスメ」でやや多かった。開花期は「ツルムスメ」で平年より3日早く、「トヨムスメ」は平年並であった。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日：平年並

事由：開花期は平年並から3日早かった。6月中旬までの生育の遅れおよび7月中旬～下旬にかけての低温の影響により主茎長は各品種とも平年より短く、また「ユウヅル」では主茎節数が、「スズマル」では分枝数が少ない。一方、着莢数は「ツルムスメ」で平年より少ないものの、「ユウヅル」および「トヨムスメ」では多い。

以上により、現在の作況は平年並である。

9月20日 やや不良

事由：8月に引き続き主茎長は平年より短く、主茎節数および分枝数は平年並～少ない。着莢数は「ツルムスメ」、「ユウヅル」および「スズマル」では平年より少なく、「トヨムスメ」では平年並である。

以上により、現在の作況はやや不良である。

10月20日 不良

事由：成熟期は平年より2～8日早かった。成熟期における着莢数は平年より少なく、また一莢内粒数も「ツルムスメ」以外の品種は平年より少なかった。百粒重は「ユウヅル」と「スズマル」で平年より重かったが、「ツルムスメ」と「トヨムスメ」は平年よりやや軽かった。これらの結果平年比83～92%の低収となった。

以上により現在の作況は不良である。

品種名		ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル		
項目	年次	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3
出芽期	(月.日)	6.01	6.02	△ 1	6.01	6.02	△ 1	6.01	6.02	△ 1	6.01	6.01	0
開花期	(月.日)	7.19	7.22	△ 3	7.30	7.31	△ 1	7.18	7.18	0	7.25	7.27	△ 2
成熟期	(月.日)	9.26	10.01	△ 5	10.10	10.18	△ 8	9.24	9.27	△ 3	9.29	10.01	△ 2
主茎長 (cm)	6月20日	8.5	8.8	△ 0.3	9.4	8.9	0.5	8.8	10.1	△ 1.3	7.8	7.8	0.0
	7月20日	43.4	45.4	△ 2.0	39.5	41.5	△ 2.0	41.9	47.7	△ 5.8	34.9	37.1	△ 2.2
	8月20日	54.2	60.0	△ 5.8	76.2	87.5	△ 11.3	57.1	60.3	△ 3.2	67.1	72.0	△ 4.9
	9月20日	51.1	60.1	△ 9.0	74.5	88.1	△ 13.6	56.6	61.3	△ 4.7	68.0	72.6	△ 4.6
	成熟期	53.3	59.7	△ 6.4	75.5	88.2	△ 12.7	56.5	61.1	△ 4.6	65.6	73.7	△ 8.1
主茎節数 (節)	6月20日	2.6	3.4	△ 0.8	2.5	3.4	△ 0.9	2.5	3.1	△ 0.6	2.3	3.3	△ 1.0
	7月20日	11.5	10.9	0.6	11.7	10.5	1.2	10.0	9.5	0.5	11.5	10.6	0.9
	8月20日	11.9	12.6	△ 0.7	14.5	16.1	△ 1.6	10.1	10.4	△ 0.3	14.1	14.6	△ 0.5
	9月20日	12.1	12.5	△ 0.4	14.4	15.9	△ 1.5	10.3	10.2	0.1	14.6	14.5	0.1
	成熟期	11.8	12.4	△ 0.6	14.7	16.1	△ 1.4	10.3	10.3	0.0	14.0	14.3	△ 0.3
分枝数 (本/株)	7月20日	6.8	6.1	0.7	4.2	4.5	△ 0.3	5.7	5.8	△ 0.1	8.3	7.7	0.6
	8月20日	5.9	6.7	△ 0.8	4.7	4.7	0.0	5.8	6.4	△ 0.6	9.5	11.7	△ 2.2
	9月20日	6.1	6.7	△ 0.6	4.6	4.6	0.0	4.9	6.7	△ 1.8	8.9	11.4	△ 2.5
	成熟期	5.4	6.9	△ 1.5	4.6	3.7	0.9	5.2	6.4	△ 1.2	8.3	10.0	△ 1.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	48.6	55.3	△ 6.7	50.5	39.3	11.2	77.2	68.6	8.6	144.8	143.3	1.5
	9月20日	46.6	51.9	△ 5.3	48.7	52.3	△ 3.6	62.0	62.2	△ 0.2	109.2	119.2	△ 10.0
	成熟期	44.9	52.1	△ 7.2	48.8	51.9	△ 3.1	58.7	62.9	△ 4.2	91.7	119.1	△ 27.4
一莢内粒数	1.78	1.74	0.04	1.69	1.75	△ 0.06	1.68	1.81	△ 0.13	2.26	2.36	△ 0.10	
子実重 (kg/10a)	285	341	△ 56	297	324	△ 27	312	374	△ 62	270	327	△ 57	
百粒重 (g)	46.6	47.7	△ 1.1	45.5	43.8	1.7	39.3	40.3	△ 1.0	16.5	15.0	1.5	
屑粒率 (%)	3.5	2.2	1.3	2.7	4.1	△ 1.4	1.5	1.6	△ 0.1	1.1	1.8	△ 0.7	
品質 (等級)		3上			3下			3中			2中		
子実重平年対比 (%)		84	100		92	100		83	100		83	100	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値。

5. 小豆

6月20日

作況：やや不良

事由：播種期は平年並の5月27日であった。播種後に適度な降雨に恵まれたため出芽は順調で、出芽期は平年より2日遅い6月12日であった。6月に入ってから日照時数が少なく、6月中旬は低温に経過したため、生育はやや停滞した。主茎長は平年より1.5cm短く、主茎節数も0.6節少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日

作況：やや不良

事由：6月下旬は高温・多照であったが、7月は降雨が多く、さらに上旬が寡照、中旬が低温に経過したことから、主茎節数は平年並であったが、主茎長、分枝数はいずれも平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日

作況：やや不良

事由：開花期は平年より2日遅く、8月中旬に入り曇天が多かったため生育は遅れている。現在のところ、主茎長は平年より4cm長かったが、主茎節数および分枝数は平年を下回っている。着莢数も平年の85%と少なかったが、現時点でも開花が認められ、生育の進捗により着莢数の増加が予想される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

9月20日

作況：やや不良

事由：8月下旬以降低温に経過したため成熟期は平年より5日遅かった。主茎長は平年並であったが、主茎節数および分枝数は平年を下回った。着莢数および一莢内粒数は平年の97%であった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

10月20日

作況：不良

事由：登熟期間が全般に平年より低温に経過したため、百粒重は平年より重くなったが、着莢数と一莢内粒数が平年より少なかったことから、子実重は平年比92%と低収であった。

以上により、現在の作況は不良である。

品種名		エリモショウズ		
項目 \ 年次		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.27	5.26	1
出芽期	(月.日)	6.12	6.10	2
開花期	(月.日)	7.27	7.25	2
成熟期	(月.日)	9.14	9.09	5
主茎長 (cm)	6月20日	2.7	4.2	△ 1.5
	7月20日	17.2	19.7	△ 2.5
	8月20日	69.0	65.0	4.0
	成熟期	68.3	66.6	1.7
主茎節数 (節)	6月20日	1.0	1.6	△ 0.6
	7月20日	8.8	8.4	0.4
	8月20日	12.5	13.0	△ 0.5
	成熟期	12.6	13.1	△ 0.5
分枝数 (本/株)	7月20日	2.6	4.0	△ 1.4
	8月20日	3.2	5.0	△ 1.8
	成熟期	3.4	4.3	△ 0.9
着莢数 (莢/株)	8月20日	50.8	60.0	△ 9.2
	成熟期	52.6	54.3	△ 1.7
一莢内粒数		5.94	6.10	△0.16
子実重 (kg/10a)		314	341	△27
百粒重 (g)		14.1	13.1	1.0
屑粒率 (g)		1.8	3.3	△ 1.5
品質 (等級)			3上	
子実重平年対比 (%)		92	100	

注1) 平年値は前7カ年中、平成15年(最豊)、平成18年(最凶)を除く5カ年

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値。